

高美小学校内 TM だよ

R8.5.20.NO.5

5年2組の国語「きいて、きいて、きいてみよう」の授業におじゃましました。

★伝え方を意識した導入★

この時間は、インタビューした内容を友だちに伝え合う活動に取り組んでいました。はじめに、「～だそうです」「～らしいです」「～によると」といった表現を確認し、事実として伝えるための言い方について整理されていました。また、事実と感想の違いについても短く押さえることで、その後の活動に見通しをもつことができているようでした。ポイントを端的に確認することで、活動の時間を十分に確保しておられました。

★安心して取り組むための工夫★

インタビューの記録は、それぞれの子のロイロノートに、動画やメモなどで残されており、自分が伝える内容を整理しながら活動していました。報告文の型が示されていたことで、自分のメモをもとに文章にしていく見通しをもちやすくなっていました。また、「型」があることで、子どもたちが一人でも安心して活動に取り組んでいるようでした。困ったことがあったらすぐに濱田先生に質問をする様子が見られ、教室で安心して学習に向かう子どもたちの姿が見られました。「まだ時間がほしい」という声や、粘り強く取り組む姿も印象に残りました。

★伝え合いを通した学び★

班での交流では、「何のために交流するんだっけ?」という問いかけをもとに、「友だちのよさを伝え合う」という目的を意識しながら活動が進められていました。話し手の内容にうなずきながら耳を傾けたり、発表後に拍手が見られたりと、互いの話を受け止めながら聞く姿が見られました。全体交流の前には「ちゃんと話きけた?」と問いかける場面があり、それぞれが自分の聞く態度についてふりかえるきっかけを作っておられました。全体交流では、各班でよかった人を代表者として推薦する場面がありました。代表者が必ず発表するのではなく、「発表してもいいよ」という人が全員の前で発表していました。代表に選ばれたから必ず発表するのではなく、発表するかどうか選ぶことができるので、安心して参加できる雰囲気がつくられていました。終末にはふりかえりを書く時間が設定されていました。「自分に点数をつけるなら」「聞き手、話し手、記録をしてみて」と視点が明確になっていたことで、子どもたちはふりかえりやすかったのではと感じました。

～まとめ～

「何のために交流するのか」を確認しながら話し合う中で、友だちのよさに目を向け、互いに認め合おうとする姿が広がっていました。全体交流でも、追質問をしあったり、「へー! そうなんや!」と相槌をうったりする子どもたちの様子から、安心感をもって学習に取り組んでいることが伝わってきました。落ち着いて学習に向かうことができる環境づくりも、自ら学びに向かう力を育てる上で欠かせないなと改めて感じました。濱田先生、5年2組のみなさん、ありがとうございました。

